横浜市大 あり方懇談会

存続には大胆改革を

答申案まとめる 財政、人事面で提言

横浜市大の将来像を検討する中田宏市長の私的機関「市立大学の今後のあり方懇談会」（座長・橋爪大三郎東工大教授）は十三日、巨額の累積負債を抱える同大の今後の選択肢として「大胆な改革で生まれ変わり存続する」「有力私大に売却する」などとする答申案をまとめた。存続条件として財政や人事面の改革などで「実現すべき事項」などを具体的に提言。答申案は二十七日に正式にまとめられ、中田市長に答申される。（報道部・牧野　昌智）

答申案は「市大は現状のままで存続する道はまったく考えられない」とあらためて強調。私大への売却や転換にも触れたが、買い手の問題など実現の難しさを指摘。その上で前回に出された座長私案（たたき台）で盛りこまれた「廃校」についても「選択肢として残しておくべきだ」とした。

あり方懇では各委員が答申案をめぐり細部の詰めを実施。市大が抱える千百四十一億円の累積負債のほかに、年間で市からの繰入金が二百億円以上に上ることなどから、赤字体質改善へ年度を区切った具体的な数値目標を導入すべき点などで合意した。

大学の性格付けとしては「教育と研究のうち、教育に重点をおく」「三学部を一学部に統合する」などとした。名称は「国際教養大学」などが挙がった。組織や人事に関しては「経営形態は法整備の状況もあるが、独立行政法人とする」「教員は任期制・公募制を原則とし主任教授が選考し、人事委員会に諮る」などを要求。財政改善では学費の値上げや、市費の繰入金を適切な範囲にとどめることなどを求めた。入試については「入学資格試験を夏休み前に行う」などとした。

懇談会では、同市大学長の諮問機関「将来構想委員会」が独自の提言を発表し、学部の縦割りを廃止した教育・研究組織の構想を提示した。同委員会側は「われわれがつくった大枠（改革案）も座長の私案と重なる部分はある。改革はわれわれ自身でもできると確信している」などと主張した。

1床当たり建設費

「民間の2倍相当」

新港湾病院で中田市長

横浜市の中田宏市長は十三日、市会本会議の施政方針演説で、諮問機関により「民間への移譲」などが答申された新港湾病院について「保健医療計画ではベッド数がすでに足りている市南部医療圏にありながら既存ベッド数の倍増、一床当たりの建設費が民間の二倍相当など公民の適切なバランスに欠ける」と問題点を指摘し、あらためて見直しの考えを強調した。

＝関連記事2面に

一方で「医療施策の懸案事項に対して迅速かつ積極的な対応を行う『先導的医療』、救急医療、感染症医療などのように不採算で公的な関与が必要な『政策的医療』などは公立病院として地域医療の供給に重要な役割を担っている」との考えも示した。

民間と競合する医療分野については「任せられるものは民間に任すことが重要だが、公立が担うのは不採算部門だけではない。適度な競争による切磋琢磨（せっさたくま）は公民双方にとってメリットがあるはず。行政はバランスを考えて地域医療に責任を持たなくてはならない」と訴えた。

中田市長は本会議後、記者団に「五つの公設公営病院を抱える市として、全体を見渡した上で見直しの対象としている」とコメントした。

地域の魅力見つめ直し

西さがみ連邦共和国 箱根でパネル討論

西さがみ連邦共和国「広域連携フォーラム」が十三日、箱根町で開かれ、市町村合併に対する関心の高さをうかがわせた。

これに対し、米岡幸男湯河原町長は「合併には、首長同士の意思疎通や仲間意識が大切」、三木邦之真鶴町長も「（両町合併から）十一十五年後には、同共和国の合併ができるかもしれない」と応じた。

タマちゃん情報

区民にごあいさつ？

アゴヒゲアザラシのタマちゃんが十三日、横浜市西区の帷子川に四日ぶりに姿を現した。

「見守る会」によると、同日早朝、同区西平沼町の護岸にいるのが確認された。"自宅"に戻ったタマちゃんは終日、二十五日まで、「見守る会」のメンバーが撮影したほか、「明日のバレンタインデーもいてくれたら」と願うファンもいた。

日ごろの鍛錬成果を競う

県警が逮捕術大会

県警逮捕術大会が十三日、横浜市栄区桂町の県警泰学校体育館で開かれ、本部各部や五十三署の代表が日ごろの鍛錬の成果を競い合った。大会は技能向上と士気高揚を目的に、一九七〇年から開催され、今年で三十三回目。

競技には六十三チーム、約五百二十人が参加。防具などを身につけた代表選手らが警棒や素手で対戦し、容疑者制圧の技術を披露し合った。勇ましい声を上げ

県内17農協の役職者が参加した金融推進大会

金融推進大会

立に総力

」など重点